

(3) 高齢者支援活動（地域包括支援センター支援）

担当：保健福祉課（高齢者支援チーム）

活動経過

平成23年

- 5月13日 管内に避難している町村の地域包括支援センター（以下包括）及び受入市町村とその包括を訪問（～5月20日）
- 7月13日 会津管内における相双地域の包括情報交換会
- 8月25日 全会津包括意見交換会（会津管内に避難している町村及び包括を含む）
- 11月22日 檜葉町・大熊町包括情報交換会①
- 12月16日 当所総務企画課主催研修会『災害時の高齢者支援を考える（地域保健福祉活動推進研修会）』

平成24年

- 1月17日 檜葉町・大熊町包括情報交換会②
- 3月27日 檜葉町・大熊町包括情報交換会③

活動内容及び活動場所

1 状況把握し、所内・本庁高齢福祉課・相双保健福祉事務所と共有

- (1) 管内に役場機能を移転していた町村の包括訪問
避難している町村の包括3カ所へ出向き、現在の活動・避難先市町村との連携状況・今後の計画・課題等を把握し、相双保健福祉事務所の役割を会津地域においては当所が担うことを伝え、随時の情報提供実施。
- (2) 避難者受入市町村及び包括訪問
避難者受入先となった管内6市町村（高齢保健福祉担当と面接）及び4包括へ出向き、避難所支援・介護認定の依頼状況・介護サービス・介護予防事業の受入可能状況について把握。

2 情報交換会実施

- (1) 会津管内における相双地域の包括情報交換会（当所にて）
包括訪問等により把握した課題等をふまえ、避難している包括4カ所（紙面参加1カ所を含む）、居宅介護支援事業所1カ所、相双保健福祉事務所・本庁高齢福祉課担当、当所職員にて情報交換実施。（計11名参加）。
- (2) 全会津包括意見交換会（会津若松市コミュニティ施設ピカリンホールにて）
①震災後の対応を振り返り、今後の活動を考える、②避難している相双地域の包括が会津地域の包括との連携・地域資源の活用促進を目的に実施（計54名参加）
- (3) 檜葉町・大熊町包括情報交換会（3回実施 当所にて）
当所からの情報提供後に、現在の活動状況等について情報交換実施。

3 他地域事例の学習（会津地方振興局 会議室にて）

意見交換会等が出された課題等をふまえ、新潟県の震災対応について学ぶ機会として研修会開催。テーマは『災害時の高齢者支援を考える～地域包括支援センターの活動と役割を中心に～』とした。

活動実績

(開催日等)	訪問による 相談	会津管内における相双地域の包括情報交換会 (23年7月13日)	全会津包括 意見交換会 (23年8月25日)	研修会 (23年12月16日)	檜葉・大熊包括情報交換会 (2回実施)
檜葉町包括	23年5月13日	2名	1名	1名 (他町職員1名)	実2名延4名
大熊町包括	23年5月17日	3名	2名	—	実2名延4名
葛尾村包括	23年5月16日	1名	—	—	—
双葉町社会福祉協議会（ケアマネ）	—	1名	1名	—	—
浪江町包括	—	紙面参加	2名	—	—
管内市町村	6カ所	—	8市町村8名 (全会津)	7市町村7名 (全会津)	—
管内地域包括	4カ所	—	20カ所29名 (全会津)	13カ所17名 (全会津)	—
相双保健福祉事務所	—	1名	1名	1名	事後報告
本庁高齢福祉課	—	1名	1名	1名	—

課題

1 広域・大規模災害発生時の市町村間の調整

今回の震災・原発事故のように自地域に避難できない広域・大規模災害の場合、住民に近い地域包括支援センターが活動しやすい環境を整えることが必要。しかし、委託されている地域包括支援センターが多く、自地域以外の避難者への支援には戸惑いがあった。市町村間の調整と必要時市町村間の協定等も検討する必要がある。

2 平時からの備えとして

被災市町村からの声として要介護認定状況を含め市町村は『住基等情報を持ち出せるシステム』と『地域包括の役割を具体的にする』ことが求められる。また震災対応として共通するのは『マニュアル+指示命令の核+自分で考え動くこと』であり、平時に検討しておく必要がある。

被災者などの声

震災・原発事故により自地域以外での活動は、土地勘もなく地域の資源もわからず、また何を優先して活動すればいいかわからなかったが、同じ境遇の包括同士で話をすることで、共感でき、ほっとした。（平成23年7月13日 会津管内における相双地域の包括情報交換会より）

防災マニュアルは完全なものを作る必要はなく、目の前で起こっていることに創意工夫・臨機応変に対応できることが求められた。（平成23年8月25日 全会津地域包括意見交換会より）

業務を担当した職員の声

地域包括支援センター職員を支援することで、避難している高齢者への間接的な支援を実施した。震災直後の活動を振り返り、他地域の震災対応の活動を見聞きすることで、管内市町村にとっては通常の活動のあるべき姿や災害等への備えについても考える機会になった。自らを振り返ると、所内や主管課との情報共有は想像力がないとできないこと、また平時にできていない活動は有事にできないこと等を痛感した。